

新しい、須賀小学校 新しい、地域拠点



今、町では令和9年度の開設に向けて須賀小学校を現在の地に再整備する計画を立てています。今回、その基本構想がまとまりましたのでお知らせします。

問 教育総務担当
34・1111 内線 425

2-17

須賀小学校地域拠点施設 基本構想



基本理念

かえでの木の下 子どもと大人が共に学び 共に育つ

～須賀小エリアに活動を生み出す みんなの学校～



昨年10月には須賀小学校通学区に住む皆さんに無作為に声をかけ、10歳から88歳の皆さんにより、1日がかりのワークショップを須賀小中学校体育館で開催しました。

「須賀小学校地域拠点施設基本構想」が策定されました。構想は、学校区内に住む町民を対象としたワークショップでの話し合いや、専門家や町民などで構成される検討委員会において議論されてきたものです。

構想では、整備にあたっては「新しい時代の流れに対応」し、子どもたちにとって最良の学習環境を提供することを第一の方針としています。

また、建築的な工夫によって、「地域のみんなが集まり、新たな出会いが生まれる場」をつくり、地域のさまざまな活動がここで行われることを方針としています。学童保育や和戸公民館なども建物として一体化し、地域のコミュニティ拠点とする想定となっています。

そして、地域全体がネットワークを築き、協力し合う、そのための機能を持つことを方針の一つとしています。

町では、令和5年度中にこの構想をもとにした具体的な「基本計画」を策定します。

基本方針 1

新しい時代の流れに対応した小学校を再整備する

基本方針 2

学校と地域の交流により子どもたちが学び・成長する場をつくる

基本方針 3

地域のみんなが集まり、新たな出会いや活動が生まれる場をつくる

基本方針 4

地域のネットワークを築きエリア全体を活性化する

▶ 最良な教育環境を提供する学校機能

▶ 気軽に立ち寄れる居心地の良いオープンな場

▶ サークルや自治会の集まり、イベントなど様々な地域の活動ができる場

▶ 人と人、情報をつなげ、新たな活動を生み出す機能

▶ 子どもたちの居場所となる場・子育て世代を支える場

▶ いざという時に備える地域の防災機能

整備スケジュール

令和4年度 基本構想を策定

令和5年度 基本計画を策定

令和6年度 基本設計・実施設計

令和7年度 工事

令和8年度 工事

令和9年度 開設



新しい教育環境に期待
須賀小学校 金野校長

今回の整備で、最初からICT(インターネットなどを使った学習)環境や段差のない廊下や部屋、オープンなスペースを考慮して学校ができれば、とても良いと思いました。教室の移動や地域との交流など、一日の学びがスムーズになり、教育効果ははかり知れません。「安心、安全で、うるおいに満ちた魅力的な学校」になるのではないのでしょうか。子どもたちと地域の方が共に学び、共に育つ、そんな日常がいつでも見られるような須賀小学校にしていけると思います。



みんなが集まる場所として
近藤さん(須賀小学校 PTA 会長)

今度整備される学校は、「新しい地域の拠点」でもあるという考え方はいいですね。地元のまつりの世話人としても活動していますが、地域みんながいつもここに集まるという場所になればいいですね。また、たとえば学校で保護者や地域の人たちが子どもたちに教える側になるのも、いいんじゃないかと思います。地域への愛着も高まると思います。建物そのものよりも、ここに来れば誰かいて、声をかけてもらえるという場になればいいのではないのでしょうか。



地域のハブになる施設に
日本工業大学 佐々木教授(須賀小学校地域拠点施設検討委員会委員長)

新しい施設整備では「先進的な教育機能」が確保されるとともに、日常的に地域活動、交流ができるオープンな空間になればいいですね。地域の中には集会所や公園、民間施設などで日常的に行われている活動もありますので、地域の中のいろいろな活動を結び付け、コーディネートできるような人材や機能も必要です。こうした宮代町の取り組みは学校、地域コミュニティの先進的な事例となっていくと思います。





須賀小学校地域拠点施設基本構想のページへ
〈記事ID 21712〉

今回の整備は小学校にとどまらず、地域コミュニティや防災、子育てなど多分野にわたるため、町では組織を横断したプロジェクトチームにより検討を進めています。



成長しても大事な場所として
原田さん
(無作為抽出市民ワークショップ参加者)

ワークショップに参加しました。いろいろな年代の皆さんと時間をかけて話しあえたので、とても刺激的でした。地域の交流スペースで、おじいちゃん、おばあちゃんたちの「青空マージャン」というアイデアも出ました。学校が地域のコミュニティの場になるのは良いことですね。子どもたちが卒業し、大人になってから地域の一人として学校にまた戻ってくるというのは、地域の防災や防犯の点でも大事なことだと思います。



宮代町の小中学校の校舎が建てられたのは今からおよそ50年前の高度経済成長期でした。しかし、その後日本は人口減少社会に突入しました。宮代町でも少子高齢化により町民の年齢構成も変化し、児童生徒数も減っています。今後、時代に対応した建物、最適な規模に再編していく必要があることから、宮代町では「小中学校適正配置」の議論を平成23年から市民参加で進めています。

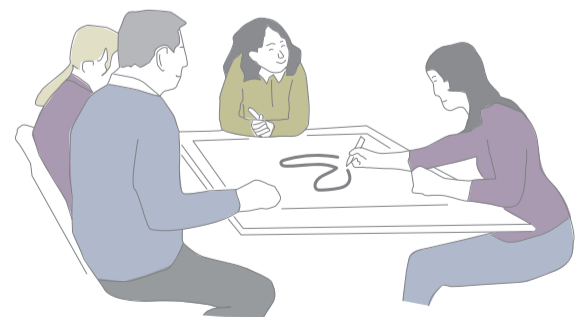
宮代町小中学校適正配置 20年間のプラン

前期10年(令和4年~13年)

- ▶ 須賀小学校と百間小学校を地域の拠点施設として再整備
- ▶ 令和9年度から笠原小学校、東小学校、3つの中学校の再編について再検討

後期10年(令和14年~23年)

- ▶ 再検討結果にもとづき再編を進める



今年度、町では須賀地域にお住まいの、さまざまな年代の皆さんにお声がけをしたワークショップを開催し、整備する施設のアイデアをいただき、建物の配置や機能を具体化していく「基本計画」を策定していく予定です。